

「災害メモリアルアクションKOBE」は
阪神・淡路大震災のつらい経験を
二度と繰り返したくないという強い思いから、
学んだことを次に活かすことができる形をつないでいこうという取り組みです。

大震災から20年以上経った今だからこそ聞けることば。今しか聞けないことば。
その個々の経験を未来へどう活かせるか。
世代を超えて、共有し、話し合い、未来へつないでいく。
今のKOBEだからこそできるアクションです。

近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を見据えて、
これから大震災を経験するかもしれないすべての人びとへ
防災の意識を継続させ、少しでも被害を小さくするために。

「未災者」が大震災を知り、さらに「未災者」に伝え、つないでいく、
新しいチャレンジです。

私たちはこれまでにないアクションにより、
継続的な取り組みの検証と検討の場を通して、
将来の被災者を減らします。

伝える大震災、つなげる防災



災害メモリアルアクションKOBE ACTION

伝える大震災、つなげる防災

Disaster Memorial Action in KOBE
Concept Book



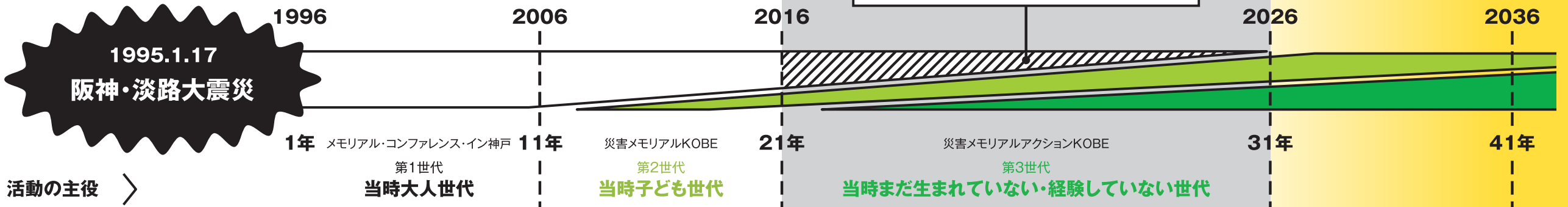
これまで私たちは「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸」、そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアルKOBÉ」を実践してきました。

2016年からの10年は当時大人だった世代が少なくなるさらに次の10年を見据えて、今後使える方法やしぐみを試行錯誤し、発見し、つくる10年とし、「KOBÉのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクションKOBÉ」という取り組みを開始しました。「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。大震災を直接経験していない若い世代の人たちと共に、「KOBÉのことば」から何を受けとり、何をどう伝えていくべきかを考えながら、未来へ活かす取り組みをしていきます。

災害メモリアルアクションKOBÉ
ACTION

KOBÉのことば

大震災から20年以上経ったKOBÉで
今だからこそ聞けることば、今しか聞けないことば



活動の主役 >

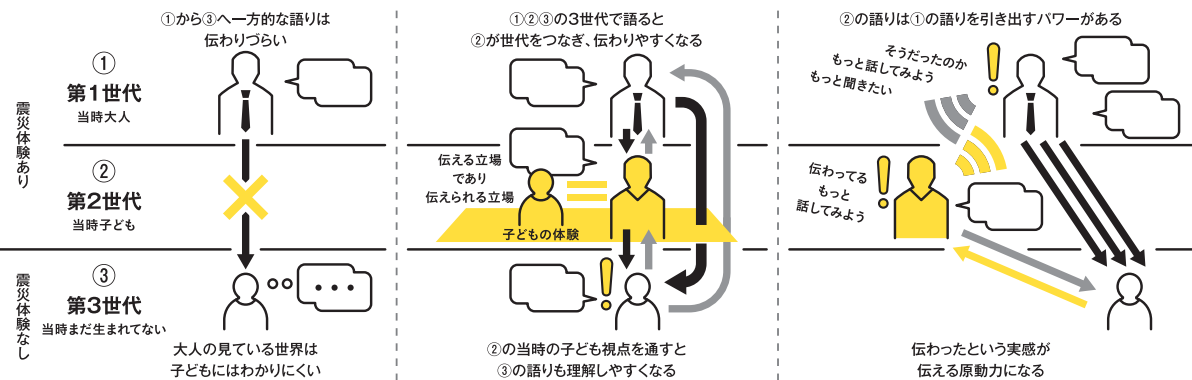
大震災を検証する

次世代へ伝える

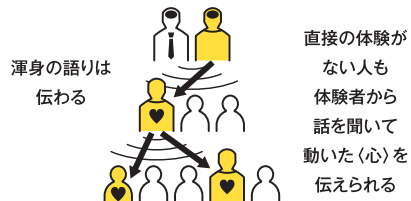
次へ活かす

20年目までの発見

- 3世代が同じ「場」に集い、一緒に語り継ぐことが効果的
- 「伝える立場」であり「伝えられる立場」でもある第2世代の存在が第1世代と第3世代をつなぐ
- 第2世代の語りは第1世代の記憶や閉ざされがちな語りを引き出すパワーがある



- 直接の体験がなくても語り継ぎ、未来につないでいける



- 大震災の経験を次の災害に向けて経験を積み、伝え、活かすための「場」が重要

- ・体験者が語るきっかけとなる「場」
- ・語り継ぐ活動の原動力を産む「場」
- ・被災者と未来の被災者をつなぐ「場」
- ・未来の防災の主役を育てる「場」



この10年間は有効!

しかし、次の10年は!

当時大人世代が少なくなる

KOBÉのことばを「生で聞く」機会が少なくなる

だから、ここからは!
次の10年に有効な方法の模索する10年間

どうすればことばと出会える?

新しいチャレンジ
未災者が未災者に伝える

どうしたら伝わる?

何を伝えていけばいい?

どうしたら活かせる?

南海トラフ巨大地震
が起きるといわれている
2035 ± 10年

将来の災害に活かす

KOBÉのことばから何を受けとり、何をどう伝えていくべきか。今後使える方法やしぐみを試行錯誤し、発見し、つくっていく。